

大里丸山集落行事活性化プロジェクト 2025 年度報告書

1. プロジェクトの目的と背景

本報告書は、今年度、丸山集落行事活性化プロジェクトにおいてどのような活動を実施してきたのかを記述していく。また、今年度の活動状況をふまえて、次年度への展望を記載することとしたい。

私たちが、丸山集落において活動を実施する契機となったのは、2024 年 2 月に大里丸山集落のカミオロシ行事を見学させていただいたことがきっかけである。この行事は 2 月の初旬に、集落内の小祠・小社を女性たちが巡って歩くもの、集落に悪いものが入らないようにと、現在も続けられている。

興味深い行事であったが、この行事を見学させていただいた際に、集落の何人かの方々から、つぎのような 2 つの課題があると教えていただいた。すなわち、①高齢化が進んできて、カミオロシ以外の集落行事の多くがなくなってしまったこと。たとえば、大里地区全体の鎮守である武隈神社の祭礼に合わせて、実施していた集落内の祭事もなくなってしまった。

②そうしたなかで、唯一続いているカミオロシ行事も時代の波の影響を受けていること。とくに世代交代が進むなかで、つぎの世代の担い手との価値観のすり合わせができなくなっている。じつは、カミオロシでは 20 近くもの小祠・小社を巡拝していく。かつては、それぞれの神様やお堂がどのような意味をもっている、どういう性格の神社であるのか、誰しもが理解していたそうである。ところが現在は、参る理由や意図を理解できていない人が増えつつあるという声が聞かれた。

すなわち、集落に唯一残った行事もこのままでは維持できなくなってしまうという危機感を表明する人たちがいる状況であった。実際にカミオロシも、数年前に、取りやめにしようという意見が出されたこともあったという。

このような現状にあることを知り、私たち大学生グループが地域内でフィールド調査をしていくことが潤滑油の役割を果たしうるのではないかと考えた。高齢世代のみなさんへの聞き取りをし、そこで得られた成果を共有したり、あるいは調査のプロセスに参加していただいたりするなかで、行事の意義を再確認していただく。そうすることで、価値観をすり合わせるきっかけを創出してみたいと考え、大学生事業へ応募した。

2. 今年度の活動内容

私たちが専門としている民俗学は、現地に出向き、緻密な聞き取り調査を行なう、フィールドワークを重要な研究手法としている。この方法を活かして、私たちは、たんに地域の人びとと交流するだけでなく、民俗学の方法論にもとづいたフィールドワークを実施

しようと試みた。すなわち、私たちの今年度の活動目的は、民俗学の手法によるフィールドワークを通じて、集落行事の維持・活性化という集落課題への応えるためのヒントをさぐることである。

本年度は、活動初年度にあたることから、活動にあたっては、対面での打ち合わせや電話やメールでのやりとりなどを綿密に行なった。主な活動状況は以下の通りである。

表 1：2025 年度の活動概要

年月日	会場	参加者	主な活動内容
2025 年 8 月 8 日	集会所ほか	学生 2 名	夏季調査についての打ち合わせ
2025 年 9 月 15 日～ 9 月 17 日	丸山集落内	学生 18 名	カミオロシ行事をはじめとする集落行事や、集落内にある神社・祠・お堂についての聞き取り調査を実施した。各戸をたずねて、調査させていただいた。
2025 年 9 月末～11 月	東北学院大学土樋キャンパス	学生 18 名	夏季調査に際して、神社や小祠に棟札が多く残されていたことを確認した。許可を得て、大学の研究室に移し、クリーニング・整理・調査分析を実施した。
2025 年 12 月 14 日	集会所	学生 7 名	権現講と呼ばれる、集落の総会にあたる行事に参加した。今年度の活動状況について報告し、今後の活動についても相談した。
2026 年 2 月 7 日～8 日	丸山集落内	学生 11 名	丸山集落のカミオロシ行事に実際に参加させていただくとともに、天栄村内の別の地区の

			状況についても調査を行なった。
2026 年 2 月 11 日	コラッセふくしま	学生 3 名	福島県地域振興課の成果報告会に参加し、活動の内容を報告

3. 活動の詳細

【夏季調査】

2025 年 9 月 15 日～17 日の 3 日間にわたり、現地での聞き取り調査を実施した。集落内の各戸をたずねて、神社や小祠、お堂の由来、かつて行なわれていた祭礼や神事の様子、神社に付属して保管されていた文書やモノ資料がないかなどを丁寧に聞き取りしていった。事前に周知していただいていたこともあり、好意的に迎えていただいた。また、当日は、行政区長経験者や役場のみなさんにもご同行いただき、調査をサポートしていただいた。



ご同行いただいた方々にご挨拶



各戸をたずねる学生ら

【棟札の整理作業】

夏季調査によって、集落内の八幡宮・愛宕神社・薬師堂の 3 カ所に棟札がまとまって残されていることが確認できた。ただ、いずれも、保管状態が良いとはいえない環境にあり、大学へ移動して、整理作業を進めていくこととした。10 月から 12 月にかけて、毎週水曜日に清掃・整理・調査分析の作業を進めていった。



棟札のクリーニング



棟札に書かれた文字の翻刻

今年度の活動状況について、集落のみなさまに直接ご報告する機会をいただいた。12月に行なわれる権現講は集落会計をしめ、次年に引き継ぐ、集落総会に当たるものである。これを丸山集落では権現講と呼んでいた。

この場に参加し、あらためて、①どのような主旨でプロジェクトが行なわれているのか、②今年度どのような活動を実施してきたのか、③学内で行なっていた棟札整理についてどのような成果・見通しが得られたのか、④次年度はどのような活動を実施していきたいかについて報告させていただいた。



権現講で報告を行なう学生



お集まりいただいた集落のみなさん

3. 次年度に向けて

1年間の活動を通じて、集落内に多くの小祠があることをあらためて実感した。「ない神様がない」ほどに多くの神仏が祀られていた。こうした小祠の来歴やもとの祭祀状況を確認していくことで、地域の文化的資源に光を当てることができたと考えている。今年度の活動の総括として、「小祠の棟札からみた集落の信仰史」という論文が『歴史と文化』に掲載される予定である。

次年度は、集落のみなさんのご要望に応えるために、各小祠に案内板を設置するために必要となる資料をさらに探索する。それにはさらに多くの住民のみなさんの「声」を集める必要がある。今年度の活動で得られた資料を交えて、案内板設置のための基礎情報をまとめることができればと考えている。